

こんなところにとらぶるの芽 (No.58)

～ちょっと気になる消費生活情報をお届けします～



12月から洗濯表示が変わります！

平成28年12月から、洗濯表示が一新するのをご存じですか？初めて見る人は戸惑うかもしれませんが、いくつかのポイントを押さえれば覚えるのは難しくないのです、これを機に洗濯表示をマスターしてみませんか？

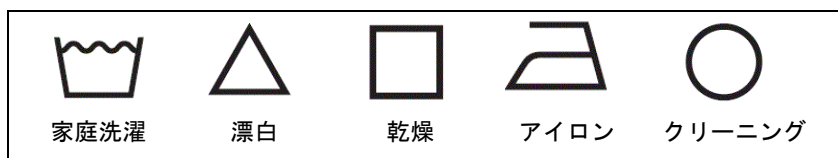
■洗濯表示は何に定められているの？

洗濯表示は、家庭用品品質表示法に基づく繊維製品品質表示規程により、JIS規格（日本工業規格）にならって表示することになっています。これまでのJIS規格は日本独自のものでしたが、国際規格に合わせた改正が行われ、平成28年12月以降に販売されるものから新しいJIS規格になった表示に変更されます。

■新しい洗濯表示のルール

新表示は、基本記号といくつかの付加記号や数字の組合せで構成されています。まずは、基本記号5つを覚え、それに処理の強さや温度などの付加記号が付くというルールを覚えましょう！

1. 基本記号は、「家庭洗濯」「漂白」「乾燥」「アイロン」「クリーニング」の5つです。



2. 付加記号

付加記号は、処理・操作の「強さ、温度、禁止」を表します。処理の強さは、基本記号の下に棒を付加し、棒が多いほど弱い処理を表します。温度は基本記号の中に点を付加し、点の数が多いほど高い温度を表します。処理・操作の禁止は、基本記号に×印で表します。



3. 指示表示から上限表示へ







これまでは、「この方法で洗濯するのがよい」という”指示(推奨)表示”でしたが、衣類にダメージを与えない取扱い方(洗いやアイロンがけなど)の限度を表示する”上限表示”に変わります。つまり、「表示より強く洗うと衣類にダメージを与える可能性があるため、その記号で示された洗い方もしくはそれより弱く洗いましょう」という表示になるので、記号が示す範囲のどの強さで洗うのか、各状況に適した洗い方を消費者自身が判断することになります。

洗い方に迷ったら、表示に記載されている、衣料品メーカー等の連絡先（電話番号や住所）に問い合わせましょう。

■新しい洗濯表示の記号（JIS L0001）

現在の洗濯表示から大きく変わる点

- (1) 家庭洗濯・・・家庭洗濯（洗濯機洗い、手洗い）ができるものは、“桶”の記号に統一。
- (2) 漂白・・・・・・・・酸素系漂白剤のみ使用できる記号が新たに追加。
- (3) 乾燥・・・・・・・・記号は“□”に簡略化され、タンブル乾燥処理の記号が新たに追加。
- (4) アイロン・・・・・・・・アイロンの底面温度は、「・」の数で温度を表示。
- (5) クリーニング・・ウェットクリーニングが追加。

洗濯のしかた	 <p>数字は洗濯液の上限温度です。「-」は弱い、「=」は「非常に弱い」洗い方を表しています。桶に手が入った記号は「手洗い」で洗います。</p>	
漂白のしかた	 <p>塩素系漂白剤や酸素系漂白剤で漂白ができるときは“△”で表します。“△”に斜め2本線が入った記号は、酸素系漂白剤のみが使えます。</p>	
乾燥のしかた	<p>【タンブル乾燥】</p>  <p>強 弱</p> <p>記号内の「点（・）」は乾燥温度を表します。</p>	<p>【自然乾燥】</p>  <p>吊り干し 平干し</p> <p>縦棒は「吊り干し」、横棒は「平干し」、斜線が入ると陰干し、棒が二本になると、ぬれ干し*を表します。 *ぬれ干しとは、脱水せず(絞らずに)干すこと。</p>
アイロンのかけかた	 <p>「点（・）」はアイロンの底面温度の上限で、「・・・」は200℃（高温）、「・・・」は150℃（中温）、「・」は110℃（低温）を表します。</p>	
クリーニングの種類	 <p>P と F はドライクリーニングで、W はウェットクリーニングを表します。（P と F は溶剤の違いです）。</p>	

衣類等の取扱いは洗濯表示の記号の意味を理解し、適切に扱きましょう。また、洗濯のときだけでなく、お店で商品を選ぶときに洗濯ラベルを確認しておく、購入後のお手入れがイメージできるのでおすすめです。

消費者庁ウェブサイト「新しい洗濯表示」ページへのリンク

http://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/household_goods/laundry_symbols.html